

誹謗中傷について考える

8月20日(木)16:35配信のネットニュース(紀伊民報)に次のような記事が掲載されていました。

新型コロナウイルスの感染拡大とともに、インターネット上では感染者を特定し、誹謗(ひぼう)中傷する書き込みが繰り返されている。背景には感染への不安やさまざまな自粛によるストレスがあると思われるが、和歌山県田辺市は「人を攻撃しても感染防止にはならない」と冷静な行動を呼び掛けている。

会員制交流サイト(SNS)やネット掲示板では、「どんな教育を受けているんだ」「自分勝手な行動でみんなに迷惑をかけるな」と感染者やその家族、感染者が出た店などを批判する書き込みが後を絶たない。

感染者は感染拡大防止のため、県に行動履歴を細かく明かしているが、それをもとにさまざまな批判が上がり、報道されていない部分について思い込みで個人攻撃するような書き込みも見られる。

過熱する書き込みで「感染が心配でも検査に行くのが怖くなる」「誰も正直に行動を話さなくなる」といった声が上がっている。

真砂充敏市長は「感染拡大の防止には、感染の可能性のある人がためらわず検査を受けられ、もし感染していた場合も、詳細に行動履歴を明かせる環境が必要。感染者への攻撃はその妨げになる」と注意を呼び掛けている。

15号にも書いたように、誰でも感染する可能性はあります。感染予防が大切なのは分かっています、十分に対策をしても100%感染を予防できるとは限りません。そんな中でこのような誹謗中傷を行い、感染された方の人格を否定するような事はあってはならないことです。

この記事に対する「書き込み」に、下記のような意見が載せられていました。

- 対策していなかったから感染したのではなく、対策していても感染する事はあるという認識になってもらいたいね。
- まあ、不安な人は、安心を求めたがるからね。感染した人は対策を怠った人だ。自分対策をしているから大丈夫。そう思う事で、心を落ち着かせたいとね。しかし、現実に対策していてもリスクがゼロになる事は無い。その現実を受け止めきれないのかもしれない。それを受け入れると、自分が対策していても安心できない事になる為、とにかく感染した人は対策していないという事にしたい心理となってしまう。そして、それを責める事で、対策している自分は大丈夫と思いたい。
- 一種の強迫観念。
- 例え不注意で感染したとしても、ウィルスが悪い事には変わりはない。誹謗中傷(批判)したところで、自分自身の感染リスクが軽減される事は無く、全く意味がない。不安をぶつけやすそうな相手にぶつけているだけ。

☆皆さんはこのことをどう考えますか。ご家族でも話し合う機会があると嬉しいです。